

「詩（言葉）の力」

2024. 3. 1

美幌町図書館長
竹花 史康

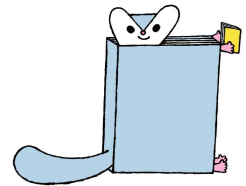
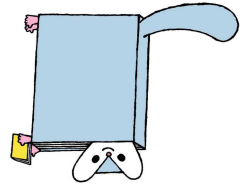
『言葉』

谷川俊太郎

何もかも失って
言葉まで失ったが
言葉は壊れなかった
流されなかった
ひとりひとりの心の底で

言葉は発芽する
瓦礫の下の大地から
昔ながらの訛り
走り書きの文字
途切れがちな意味

言い古された言葉が
苦しみゆえに甦る
哀かなしいゆえに深まる
新たな意味へと
沈黙に裏打ちされて



『言葉』は、朝日新聞の2011年5月2日夕刊に発表された谷川俊太郎さんの詩です。

谷川俊太郎さんはインタビューで、「震災後、直接的に『311』を主題とする詩は書いていない。被災者じゃないからリアリティーがないという気がして書きたくなかった」と語っていました。

それでも、谷川俊太郎さんの潜在意識から滲み出てきたのが、この『言葉』だと言われています。

東日本大震災から13年後の今年、能登半島地震が起こりました。まだ、多くの方が避難生活をされ、復旧復興が進まないところも多いようです。

被災地のニュースを見るたび、何もできないことにはがゆかさと、申し訳なさを感じていました。そんななか、谷川さんの『言葉』に触れ、むしろ、私の方が励まされ勇気づけられるような気がしてなりません。